

# 教育研究業績書

2023年05月08日

所属：食物栄養学科

資格：教授

氏名：幣 憲一郎

研究分野	研究内容のキーワード
臨床栄養学、肥満・糖尿病領域における栄養指導論	臨床栄養学、栄養指導、行動変容、糖尿病、肥満
学位	最終学歴
博乙 第九号 家政学	京都女子大学大学院

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 臨床病態栄養学を踏まえたチーム医療の在り方と患者へのアプローチ方法について	2001年4月1日～現在	実際の臨床現場で対応している実症例を提示し、具体的な経過を示して実践的対応法や各種ガイドラインの見方・考え方など工夫を凝らして臨床栄養管理の理解へと繋げている。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 「ケーススタディで学ぶ臨床栄養学実習」(化学同人)	2011年8月1日～現在	山東勤弥、幣憲一郎、保木昌徳 編著 「臨床栄養学」の実習書として、実践に即した内容となることを意識して編集及び執筆に携わった。(30講中、2講から9講を担当した)
2. 「モチベーションUP 糖尿病教室」(南山堂)	2013年6月1日～現在	稲垣暢也(監修)共著 京都大学医学部附属病院 糖尿病・栄養内科の「糖尿病教室」で、実際に使用されてきたテキストをもとに、企画編集に携わった。(第3章を担当した)
3. 「ケースに学ぶ栄養管理・食事指導 エキスパート」(南山堂)	2015年1月1日～現在	稲垣暢也、長嶋一昭、幣 憲一郎 編著 疾病治療の過程で栄養管理や食事指導が重要な役割を担ったさまざまな疾患のケースを通して、栄養療法の基本から実践までを学んでいくことを目的としている。(Ⅱ疾患別の栄養管理 糖尿病の部分を担当した)
4. 「栄養食事療法の実習」第14版(医歯薬出版)	2015年2月1日～現在	本田佳子(編)共著 患者の治療食をプログラムし、提供する側に立ち、より良い治療食と食事療法のあり方の基本を学習するための教科書として執筆に携わった。 (p119-129、246-247を担当)
5. 「リハビリ・医療スタッフ・学生のための臨床栄養入門」(文光堂)	2022年5月1日～現在	雨海照祥、山東勤弥、幣憲一郎 編著 25の病態別栄養管理法や治療食管理まで要約解説。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 管理栄養士国家資格	1986年8月26日	免許番号 29283
2. 糖尿病療養指導士(CDEJ)資格	2001年5月1日	認定番号 00188
3. 病態栄養専門管理栄養士資格	2002年4月1日	認定番号 02-417号
4. 糖尿病病態栄養専門管理栄養士資格	2016年4月1日	認定番号 16-017号
<b>2 特許等</b>		
1. 栄養素摂取量算出システム、栄養素摂取量算出方法およびコンピュータプログラム		特願2020-179476
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 第27回日本病態栄養学会年次学術集会 学術集会大会長	2024年1月26日から2024年1月28日	
<b>4 その他</b>		
1. Award to “We are up for self-care” 特別功労賞 受賞	2010年5月15日	
2. 日本病態栄養学会 学会賞(アルビレオ賞) 受賞	2013年1月16日	
3. (公社)日本栄養士会会長表彰	2013年9月1日	
4. (公社)京都府栄養士会奨励賞表彰、京都市長表彰(施設)	2016年2月10日	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
5. 令和4年度 医学教育等関係業務功労者 文部科学大臣表彰	2022年12月21日	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
-------------	---------	-----------	-------------------	----

1 著書

1. 脂質摂取の考え方と実際	共	2016年6月1日	糖尿病診療マスター 第14巻 6号 pp.462-466	コレステロール摂取について主に記し、脂肪酸摂取については、エネルギー産生栄養素バランスという観点から述べており、自身はガイドライン的考察ならびに実際の栄養指導ポイントについて担当した。 (田中 清、栗原 晶子、幣 憲一郎)
2. 適切な栄養指導のためのカーボカウントの基礎知識	単	2017年12月1日	臨床栄養 第131巻 第7号 pp.918-924	糖尿病の食事療法におけるカーボカウント法の基礎知識と活用法について述べ、最近話題の糖質制限食との違いなどについて記述した。
3. 病棟管理栄養士のための臨床検査ファーストガイドPart3. 糖尿病	共	2018年9月1日	臨床栄養 第133巻 第4号 pp.496-501	糖尿病関連検査値の意味と読み方のポイントについて記述した。とくに栄養指導・栄養管理のポイントについて担当した。 (水野 菜穂子、幣 憲一郎)
4. コンビニ食を上手に活用した栄養指導 (2型糖尿病)	共	2019年12月1日	Nutrition Care Vol.12 No.12 p18-21	2型糖尿病患者においても、自炊頻度が減少している昨今の食生活に対応するため、コンビニ食を上手に活用した栄養指導法について記述。 (登 由紀子、幣 憲一郎)
5. 糖尿病療養指導スペシャリストの活躍「糖尿病病態栄養専門管理栄養士」	単	2020年5月1日	臨床栄養. 第136巻. 第6号. 医歯薬出版、p951-955	管理栄養士のサブスペシャリストとしての糖尿病病態栄養専門管理栄養士の資格取得や実践、課題などについて記述した。
6. 新型コロナウイルス感染症流行下におけるオンライン栄養指導の現状と課題	単	2021年1月1日	臨床栄養. 第138巻. 第1号. 医歯薬出版、p27-32	COVID-19の影響を受け、栄養指導環境も大きく様変わりし、2020年より診療報酬上も認めれた「オンライン栄養指導の現状と課題」について記述。
7. 新しい病院食の概念：栄養成分別コントロール食	単	2021年4月1日	外科と代謝・栄養 55(2):78-83	外科領域における栄養管理の必要性と重要性。栄養成分別コントロール食などの運用方法など最新の栄養管理オーダー方法について記述。
8. 第IV章 栄養投与量の決定法	単	2021年5月1日	病態栄養専門医テキスト 改訂第3版 日本病態栄養学会、p48-53	(日本病態栄養学会編著) 病態栄養専門医のテキストにおける栄養投与量の決定方法について、最新の知見などを交えて記述。
9. リモート栄養カウンセリングの現状と課題～PHRにおける栄養情報のあり方も含めて～	単	2021年6月1日	New Diet Therapy 37(1):25-34	COVID-19の影響を受け、栄養指導環境も大きく様変わりし、2020年より診療報酬上も認めれた「リモート栄養カウンセリングの現状と課題」について記述。
10. 内科医が知っておきたい褥瘡の予防・管理と栄養ケア	単	2021年7月1日	Medical Practice Vol.38 No.9 p1355-1359, 2021	入院の長期化など悪影響を及ぼす褥瘡管理における栄養アセスメント・モニタリング・栄養管理・栄養指導の各ポイントについて記述。
11. 基本的な糖尿病食事療法とたんぱく質摂取の関係	単	2021年7月1日	糖尿病ケア Vol.18 No.7 メディカ出版、p40-42	糖尿病患者の高齢化の影響を受けてサルコペニア、フレイルなどの問題が危惧されており、食事療法におけるたんぱく質摂取方法のポイントについて記述。
12. 食品ロスの削減を目指したニュークックチルシステムの有効性と課題	単	2022年6月1日	Journal of The Dietetic Association Vol.65 No.6 p10-13, 2022	持続可能な開発目標(SDGs)における「食品ロス」の課題を医療機関で提供される病院食(治療食)について検証し、ニュークックチルシステムの有効性と課題について記述。

2 学位論文

1. 患者の主観的評価を考慮した栄養療法のあり方の検討《学位論文》	共	2013年11月1日	京都女子大学紀要 pp.1-44	疾患の予防・治療において、栄養療法はその基礎となるものである。しかし、栄養療法は患者自身がより積極的に関わる必要があり、実際の栄養管理・指導にあたる管理栄養士は客観的評価指標のみならず、主観的評価指標を考慮する必要があり、糖尿病腎症患者では低たんぱく質ならびに炎症性腸疾患患者では脂肪制限食と異なる
-----------------------------------	---	------------	------------------	---

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2 学位論文</b>				
				る制限を受ける患者への意識とQOL調査を実施し検討を行った。
<b>3 学術論文</b>				
1. Patients' Perception on the Nutritional Therapy for Diabetic Nephropathy (糖尿病性腎症の栄養療法に対する患者の意識) (査読付) 《筆頭論文》	共	2014年5月1日	Japanese Clinical Medicine. 2014 Vol.5, pp.1-5	2型糖尿病腎症患者59名(男性38名、女性21名)を対象として、治療上提供される低たんぱく質食が患者のQOLに与える影響を検討した。(Kenichiro Shide, Yuka Takada, Asuka Nakashima, Hidemi Tsuji, Keiko Wada, Akiko Kuwabara, Kiyosi Tanaka, Nobuya Inagaki)
2. Enteral supplementation with glutamine, fiber, and oligosaccharide modulates incretin and glucagon-like peptide-2 secretion (グルタミン、食物繊維、およびオリゴ糖の腸内補充は、インクレチンおよびグルカゴン様ペプチド-2の分泌を調節する) (査読付) 《共著論文》	共	2015年5月1日	Journal of Diabetes Investigation. 2015 Vol.6, pp. 302-308	グルタミン、食物繊維、およびオリゴ糖を含むGF0と呼ばれるサプリメントを絶食環境に置かれた患者に腸内補充することが一般的に行われているが、このGF0投与により、インクレチンと呼ばれるGIP、GLP-1ならびにグルカゴン様ペプチド-2の分泌にどのように関与しているか検討した。(Erina Joo, Atsushi Muraoka, Akihiro Hamasaki, Norio Harada, Kenichiro Shide, Nobuya Inagaki, 他8名) 担当部分：担当患者の栄養管理ならびに論文の考察等を担当。
3. 糖尿病患者の必要エネルギー量推定方法の比較 - 標準体重法vs基礎代謝推定式 - (査読付) 《共著論文》	共	2015年9月1日	糖尿病. 2015 58巻11号 pp.805-811	食事療法の摂取エネルギー量設定方法のうち、標準体重による方法の有用性について、入院糖尿病患者の体重変化率を指標として検討した。(池田 香織、濱崎 暁洋、幣 憲一郎、稲垣 暢也) 担当部分：入院患者の栄養管理および栄養指導および京大式基礎代謝推定法の作成ならびに研究考察を担当。
4. Carbohydrate intake is associated with time spent in the euglycemic range in patients with type 1 diabetes (炭水化物摂取量は、1型糖尿病患者の血糖値範囲内で費やされる時間と関連している) (査読付) 《共著論文》	共	2015年11月1日	Journal of Diabetes Investigation. 2015 Vol.6, pp. 678-686	外来患者における炭水化物摂取量と血糖変動について、1型糖尿病患者33名についてCGMS® (Continuous Glucose Monitoring) を用いて検討を行った。(Shiho Ayano-Takahara, Kaori Ikeda, Simpei Fujimoto, Kanae Asai, Yasuo Oguri, Shin-ichi Harashima, Hidemi Tsuji, Kenichiro Shide, Nobuya Inagaki) 担当部分：担当患者の栄養管理ならびに論文の考察等を担当。
5. Dietary Sodium Restriction Reduces Nocturnal Urine Volume and Nocturnal Polyuria Index in Renal Allograft Recipients With Nocturnal Polyuria 夜間多尿症を伴う腎臓同種移植片レシピエントにおける夜間尿量および夜間多尿	共	2017年8月1日	Urology. 2017 Vol. 106, pp.60-64	腎移植患者に頻発する夜間多尿症について、食塩摂取制限指導を行い症状を軽減できるか検討した。(Yoshinaga Okumura, Kanae Asai, Takahashi Kobayashi, Hitomi Miyata, Yukari Tanaka, Kenichiro Shide, Nobuya Inagaki 他8名) 担当部分：担当患者の栄養管理ならびに論文考察を担当。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
症を軽減する食事性ナトリウム制限指導の効果（査読付） 《共著論文》				
6. エビデンスに基づいた食事療法・栄養指導のポイント	単	2018年9月1日	日本糖尿病情報学会誌, Vol. 16, p60-66	糖尿病患者への栄養指導・栄養管理について、学術的な視点からポイントについて学会発表し、論文化した。
7. 産婦人科がん診断後の食事・運動療法の指導に関する feasibility study（査読付）	共	2019年2月1日	日本病態栄養学会誌 22 (2) : 139-150 2019	婦人科がんに対する食事療法や運動療法の有用性と安全性を確認するために、介入研究を行い栄養状態やQOLの変化を確認。運動療法の維持にもエネルギー管理等が重要であり、他職種が見守るチーム医療の有用性が確認された。（辻 秀美、井沢 智子、幣 憲一郎、稲垣 暢也）担当部分：外来化学療法患者への栄養管理および栄養指導、ならびに研究考察を担当。
8. 新規治療薬時代におけるクローン病患者のビタミンK栄養状態（査読付）	共	2019年4月1日	日本病態栄養学会誌 22 (4) : 253-257 2019	クローン病患者へ免疫抑制剤などが適応され、食事療法にも大きな変化起こっており、特に、骨代謝に影響を及ぼすビタミンKを用いて栄養状態を確認・評価し、実践に役立てた。（辻 秀美、幣 憲一郎、稲垣 暢也 他） 担当部分：担当患者の栄養管理ならびに論文の考察等を担当。
9. 高齢糖尿病患者のマグネシウム摂取状況と栄養食事指導の方向性について	共	2019年6月1日	Journal of Japanese Society for Magnesium Research Vol.38 No.1 p11-18 2019.	高齢者糖尿病患者が増加しており、食事形態や調理方法等を変更する必要がある、骨や歯の形成、血圧調整などで重要なMgについて、薬剤等の影響も含めて考察した。（幣 憲一郎、城尾 恵里奈、稲垣 暢也 他） 担当部分：担当患者の栄養管理、論文の執筆、考察等を担当。
10. 糖尿病患者の栄養食事指導—エネルギー・炭水化物・タンパク質摂取量と栄養食事指導—（査読付）	共	2020年4月1日	日本糖尿病学会誌 63 (3) : 91-109, 2020	糖尿病患者への栄養指導におけるエネルギー・炭水化物・タンパク質摂取量に関するエビデンス構築のため、システマティックレビュー等を行った。（山内 敏正、原田 範雄、幣 憲一郎、城尾 恵里奈 他） 担当部分：論文の執筆、システマティックレビュー、考察等を担当。
11. Medical nutrition therapy and dietary counseling for patients with diabetes—energy, carbohydrates, protein intake and dietary counseling—（査読付）	共	2020年6月1日	Diabetology International 11 (3) : 224-239 2020	糖尿病患者への栄養指導におけるエネルギー・炭水化物・タンパク質摂取量に関するエビデンス構築のため、システマティックレビュー等を行った。（原田 範雄、幣 憲一郎、城尾 恵里奈 他） 担当部分：論文の執筆、システマティックレビュー、考察等を担当。
12. 糖尿病患者の入院による骨格筋量の変化（査読付）	共	2020年9月1日	日本病態栄養学会誌 23 : 253-260, 2020	糖尿病患者は入院により骨格筋量の減少が起ることを確認し、積極的な栄養介入ならびに活動量を増やす取り組みが必要となっており、入院患者において、その傾向と対策について検討した。（玉井 由美子、幣 憲一郎、稲垣 暢也 他） 担当部分：担当患者の栄養管理ならびに論文の考察等を担当。
13. 腎移植レシピエント患者の減塩指導における自己効力感の変化と行動変容の検討（査読付）	共	2020年11月1日	日本病態栄養学会誌 23 (4) : 285-292, 2020	当院で行われた腎移植レシピエント患者の減塩指導において自己効力感に視点を置いた取り組みを行っており、その変化と行動変容について検討を行った。（浅井 加奈枝、辻 秀美、幣 憲一郎、稲垣 暢也 他） 担当部分：担当患者の栄養管理ならびに論文の考察等を担当。
14. 国民の健康長寿の延伸のために開発された自己登録式栄養摂取頻度食習慣調査—7日間の食事記録とアンケート版栄養システム相対的検証—（査読付）	共	2021年6月1日	全国国立大学病院栄養部門会議会誌 第59号 : 43-56, 2020	わが国における政策課題としての生活習慣やフレイル・サルコペニア対策が求められていることについて、ニーズ調査ならびに全世代型栄養システムを開発し、実証研究を実施した。（幣 憲一郎、利光 久美子、渡邊 潤、野本 尚子）
15. 特定機能病院におけ	共	2021年6月1日	全国国立大学病院	令和4年度診療報酬改定資料として使用され、特定機能病院におけ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
る業務実態調査ならびに管理栄養士配置人数の違いによる入院患者の栄養状態、在院日数の変化について（査読付）		日	栄養部門会議会誌 第59号：29-42. 2020	る管理栄養士の病棟配置の必要性に関する入院患者の栄養状態、在院日数の変化を調査した。（幣 憲一郎、利光 久美子、大島 志のぶ、竹島 美香、赤井 達哉、五十嵐 大輔、渡邊 潤、野本 尚子）
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 自分にできること 自分にしかできないこと「多職種が揃っている施設」～管理栄養士の視点から～	単	2016年7月 23日	第4回日本糖尿病療養指導学術集会 テーマセッション	
2. 「エビデンスに基づいた食事療法・栄養指導のポイント」	単	2016年9月3 日	第16回日本糖尿病情報学年次学術集会 シンポジウム	
3. 「食品交換表とその活用編を用いた栄養指導への展開方法」	単	2017年2月 18日	第51回糖尿病学の進歩 シンポジウム4	
4. 「糖尿病の栄養指導をチーム医療に反映させる取り組み」	単	2017年3月 17日	第81回日本循環器学会学術集会 チーム医療シンポジウム	
5. 「臨床栄養管理・栄養指導時における各種ビタミンの意義」	単	2017年6月 10日	第69回日本ビタミン学会 日本ビタミン学会・日本病態栄養学会合同シンポジウム	
6. 「今日から実践！結果が楽しみになる糖尿病食事療法のコツ！」	単	2017年11月 11日	第55回日本糖尿病学会中国四国地方会 総会 県民公開講座 招待講演	
7. 「褥瘡治療における栄養管理の注意点」	単	2018年1月 13日	第21回日本病態栄養学会年次学術集会 教育講演1	
8. 「糖尿病腎症の重症化予防に効果的な栄養指導法の検討」	単	2018年1月 14日	第21回日本病態栄養学会年次学術集会 シンポジウム	
9. 「腎不全(透析)患者の感染症と栄養管理」	単	2018年2月 11日	第16回日本フットケア学会年次学術集会 シンポジウム12	
10. 「高齢化が進む糖尿病患者の食事療法で気を付けておきたい3つのポイント」	単	2018年3月8 日	関西電力病院「地域の糖尿病診療を考える会」 招待講演	
11. 「健康長寿に役立つ最新の糖尿病食事療法」～栄養不良の二重負荷を考える～	単	2018年3月 25日	平成30年度香川県糖尿病協会総会における講演会 招待講演	
12. 「臨床現場における食事評価の現状と課題」～超高齢化対策と治療効果の視点から～	単	2018年9月5 日	第65回日本栄養改善学会学術総会 シンポジウム5	
13. 「糖尿病腎症の重症化予防に効果的な栄養指導法とは」	単	2018年10月 19日	第33回日本糖尿病合併症学会・第24回日本糖尿病眼学会総会 シンポジ	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
14. 「高齢糖尿病患者におけるサルコペニア・フレイル対策の現状と課題」	単	2019年1月11日	ウム3 第22回日本病態栄養学会年次学術集会 シンポジウム1	
15. 「症例から学ぶ高齢者糖尿病腎症患者への栄養指導」	単	2019年11月30日	第31回日本糖尿病性腎症研究会 シンポジウム	
16. 「サルコペニアを有する高齢者糖尿病の食事療法 優先する病態は？」～糖尿病の立場から	単	2020年1月26日	第23回日本病態栄養学会年次学術集会 コントラバシー 2	
17. 「オーラルフレイル対策と糖尿病」 あなたの診ている糖尿病患者の食環境は大丈夫ですか？	単	2020年10月31日	第35回日本糖尿病合併症学会	
18. 「古都“京都”に根差した和食文化とニューノーマルを踏まえた栄養指導」	単	2021年3月21日	第41回日本肥満学会 シンポジウム10	
19. 「多様化する糖尿病への医療の個別化を目指して、食事療法からみた個別化の在り方と課題」	単	2021年5月21日	第64回日本糖尿病学会 シンポジウム15	
20. 高齢糖尿病患者に対する栄養食事指導の実践と課題	単	2022年1月29日	第24・25回日本病態栄養学会年次学術集会 シンポジウム11	
21. The Role of Certified Specialist of Registered Dietitian for Diabetes (CSRDD) in the Prevention and Treatment of Diabetes in Japan.	単	2022年8月19日	アジア栄養士会議 ACD 2022 シンポジウム1	
<b>2. 学会発表</b>				
1. 「患者心理や行動変容レベルをふまえた栄養・食事指導の取り組み」	単	2015年11月14日	第52回日本糖尿病学会近畿地方会	
2. 「糖尿病患者における食事パターン分析」	共	2016年12月18日	第15回日本栄養改善学会 近畿支部学術集会	共同発表者：福島佳奈、田中清 他
3. 「糖尿病透析予防指導の効果を見据えた介入方策についての検討」	共	2017年3月10日	第36回食事療法学会	共同発表者：大島志のぶ、和田啓子、稲垣暢也
4. 「糖尿病患者における筋力と脂肪肝関連因子の関係」	共	2017年11月19日	第16回日本栄養改善学会 近畿支部学術総会	共同発表者：中谷梨佐、田中清 他
5. 「糖尿病患者における食事の多様性と体組成・運動機能との関連」	共	2017年11月19日	第16回日本栄養改善学会 近畿支部学術総会	共同発表者：魚谷奈央、田中清 他

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
6. 「肝硬変患者における胸腹水貯留の治療に伴う食事摂取量とQOLについての検討」	共	2018年1月13日	第21回日本病態栄養学会年次学術集会	共同演者：井田めぐみ
7. 「高齢者への糖尿病透析予防指導時の栄養管理ポイント」	共	2018年3月3日	第37回 食事療法学会	共同演者：清野 裕
8. 「高齢糖尿病患者のマグネシウム摂取状況と栄養食事指導の方向性について」 口演発表	共	2018年12月1日	第38回日本マグネシウム学会	共同演者名：城尾恵里奈、稲垣暢也
9. 糖尿病患者における入院中の骨格筋量変化ならびにレジスタンス運動や食事摂取量との関係	共	2019年5月13日	第62回日本糖尿病学会	共同演者：井田めぐみ 他
10. 「あなたが担当している高齢糖尿病患者への栄養指導！ 本当に大丈夫ですか？」	単	2019年7月25日	岡山 糖尿病 Total Care Web Seminar 2019 口演発表（幣 憲一郎）	
11. 「透析予防指導で腎症改善と腎機能悪化抑制を認めた症例と京大病院の透析予防の実績」	共	2020年1月26日	第23回日本病態栄養学会年次学術集会	共同演者：大島志のぶ
12. 「他職種が病棟専任管理栄養士に求める業務について」	共	2020年1月26日	第23回日本病態栄養学会年次学術集会	共同演者名：嶋田義仁 他
13. Optimal nutrition from children to the elderly.	単	2021年12月6日	東京栄養サミット Tokyo Nutrition for Growth Summit 2021 Official Side Event	
14. 『遠隔栄養指導について』～遠隔栄養指導の現状と将来展望を踏まえて～	単	2022年6月25日	第20回東京CDEフォーラム WEB発表	
15. 「今、求められる専門技能と技術を活用する力 ～糖尿病病態栄養専門管理栄養士を取得して～」	単	2022年7月23日	第9回日本糖尿病協会年次学術集会 WEB発表	
<b>3. 総説</b>				
1. 糖尿病腎症の重症化予防に効果的な栄養指導とは	単	2019年4月1日	糖尿病合併症 33 (1) : 104-109, 2019	京都大学医学部附属病院で行われた透析予防指導効果の解析結果ならびに日本病態栄養学会の「糖尿病透析予防データベース」を後方視的に解析した結果を交えて、現在我が国で行われている糖尿病腎症の重症化予防に効果的な栄養指導とはどのようなものか考察した。
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 「糖尿病患者への最新の栄養指導ポイント」～食べ方から薬物併用の注意点まで～	単	2016年11月10日	平成28年度 相模糖尿病懇話会	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
2. 「高齢者糖尿病患者への食事療法で注意すること」～サルコペニア予防と治療の観点から～	単	2017年10月12日	第47回 近畿・糖尿病の自己管理を考える会	
3. 「糖尿病合併・妊娠糖尿病妊婦に対する食事療法」～若年女性の抱える栄養問題を踏まえて～	単	2018年3月16日	第22回長崎県糖尿病・妊娠研究会	
4. 「高齢者糖尿病患者の栄養管理」～知っておきたい食事療法の注意点～	単	2018年10月27日	平成30年度福岡県栄養士会生涯教育医療事業部実務研修	
5. 「患者と共に始めるカーボカウント法の基本から実践まで」～カーボカウントの手引きを活用して～	単	2018年11月17日	平成30年度愛知県栄養士会医療事業部会研修会	
6. 「糖尿病腎症(透析予防)を意識した食事療法のポイント」～特に患者の高齢化を踏まえて～	単	2018年12月2日	平成30年度京都府糖尿病重症化予防対策ステップアップ研修会	
7. 「将来の給食経営管理と治療食提供における課題について」	単	2019年8月25日	令和元年度高知県栄養士会生涯教育実務研修会 口演発表	
8. 「栄養ケアプロセスとモニタリングの基本から実践」	単	2019年11月15日	令和元年度兵庫県栄養士会生涯教育研修会 WEB発表	
9. 「糖尿病食事療法の新しい動きを踏まえて」	単	2019年12月7日	令和元年能登北部糖尿病重症化予防連携部会研修会 口演発表	
10. 「特定保健指導に役立つ栄養指導のコツ！」～特に患者の高齢化を踏まえて～	単	2020年2月12日	令和元年度京都市国民健康保険特定保健指導実務者研修会	
11. 「エビデンスに基づく糖尿病食事療法」～必要となる給食管理の話題についても概説！～	単	2021年6月2日	令和3年度三重県臨床栄養研究会 総会 (WEB発表)	
12. 「高血圧治療を目指した塩(食塩)に関する最新の知見」	単	2021年6月5日	令和2年度京都府行政栄養士研修会 (口演発表)	
13. 「糖尿病患者さんへの栄養指導論」	単	2021年8月28日	令和3年度山口県栄養士会生涯教育実務研修会 (WEB発表)	
14. 『糖尿病治療ガイド 2020-2021を踏まえたこれからの糖尿病食事療法』	単	2022年2月6日	令和4年度愛知県栄養士会生涯教育研修会 (WEB発表)	
15. 「サルコペニアを有する高齢糖尿病患者への栄養指導のポイ	単	2022年4月14日	第51回近畿・糖尿病の自己管理を考える会	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
16. 「コロナ禍における食事療法の重要性」～今すぐ実践 3つのポイント～	単	2022年6月18日	第38回甲賀湖南糖尿病研究会（WEB発表）	
17. 『ポストコロナ時代に向けた食生活指導について』～遠隔栄養指導の現状と将来展望を踏まえて～	単	2022年9月4日	公益社団法人 滋賀県栄養士会 令和4年度 生涯教育研修会 WEB発表	

6. 研究費の取得状況				
1. 平成30年度 (AMED) 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 「後期高齢者のADL維持・改善に着目した栄養療法の開発」		2018年4月1日～現在	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) 研究費 分担研究員	生活習慣病を有する後期高齢者の入院から在宅において、ADL維持・改善に着目した効果的かつ実践可能な栄養療法を開発することを目的とし、食事摂取量の変化、ADL評価尺度・筋量・筋力の変化量を確認。後期高齢者の介入ポイントとして、エネルギー・たんぱく質等の重要性が確認できた。
2. 令和2年度 (AMED) 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 「生活習慣病を伴う複数疾患を有する高齢者に対する栄養療法支援アプリ作成に関する研究」		2020年4月1日～現在	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) 研究費 研究分担員	複数の疾患を有する患者さんに対してどのような食事療法をすることが有効であるかを検討するための介入研究を行い、得られた結果についてAIを用いた分析を行い、栄養療法支援アプリ作成のための基本情報収集を行った。
3. 令和3年度 (AMED) 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業 「食事療法の計画・実行支援AIプログラムによりPHR・EHRを糖尿病重症化予防に活用する仕組みの研究開発」		2021年9月1日	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) 研究費 分担研究員	糖尿病の栄養食事指導を補助して治療に貢献するモバイルアプリケーション (DTx) の開発を担当。現在、効果を検証する多施設における臨床試験を実施しており、2024年度まで継続中である。
4. 令和4年度 (AMED) 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業ヘルスケア社会実装基盤整備事業 「デジタル技術の血圧低下作用に関する指針の研究開発」		2022年9月26日	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) 研究費 分担研究員	デジタル技術を活用した生涯にわたる血圧管理に関する指針を作成し、ヘルスケア・プロバイダーだけでなく、すべての国民・患者・ヘルスケアサービス利用者/事業者などに広く使われる指針の作成を目指す。2025年度末まで継続中。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 1986年10月1日～現在	日本病態栄養学会会員 2003年4月より常任理事
2. 2001年4月1日～現在	日本糖尿病学会会員、2001年より食事療法検討委員会委員
3. 2001年4月1日～現在	日本糖尿病療養指導士認定機構会員 2018年6月より常任理事
4. 2008年11月1日～現在	日本栄養改善学会会員 評議員
5. 2010年5月1日	Award to “We are up for self-care” 特別功労賞 受賞
6. 2011年8月1日から2017年3月31日	厚生労働省 管理栄養士国家試験 作成委員会委員
7. 2012年12月1日～現在	京都府栄養士会 医療事業部会長 2016年6月より常務理事(副会長)
8. 2013年1月15日	日本病態栄養学会 学会賞 (アルビレオ賞) 受賞
9. 2013年9月1日	(公社)日本栄養士会会長表彰 受賞
10. 2014年6月1日～現在	全国国立大学病院栄養部門会議 委員長 (4期8年担当)

学会及び社会における活動等

年月日	事項
6. 研究費の取得状況	
11. 2020年4月1日～現在	日本糖尿病協会 理事